

# 3 常任委員会が合同で現地調査

= 札内川ダムやとちかち広域消防事務組合など4か所 =

7月4日、3常任委員会（総務文教、経済建設、民生）が合同で現地調査を行いました。札内川ダム、なかとちかち浄水場、とちかち広域消防指令センターのほか、とちかち財団を視察しました。

ダムが作られる前の十勝川流域では、たびたび洪水被害を受けており、また、十勝中部地区の人口増に伴う新たな水源の確保が必要とされた。これらの問題を解消するとともに、農業用かんがい用水の確保と水力発電供給を合わせ持つ多目的ダム

として札内川ダム建設が決定した。昭和46年度予備調査に着手、27年の歳月を経て平成10年のダムが完了した。このダムの完成により、1日最大約10万tの水道水、20300haのかんがい用水の給水とともに、8000KW／日の発電が可能となっ

た。特に平成28年8月、100年に一度の大雨をもたらした台風では、札内川沿岸や十勝川下流部沿岸を、大きな水害被害から防ぐことに貢献した。

### 水源は清流日本一 1市6町村に配水

十勝中部広域水道用水供給事業は、十勝圏中部1市6町村に、将来にわたり安定した水道用水を供給するために始められた。札内川に建設中のダムに水源を求め、昭和56年10月十勝中部広域水道企業が設立された。給水量は、清流日本一に7度輝いたおいしい水を最大約10万t／日。このうち音更町には、概ね4000t／日を送水されている。これは、町の水道水使用量の約40%にあたる。

### 災害対応が迅速化 統合効果はつきりと

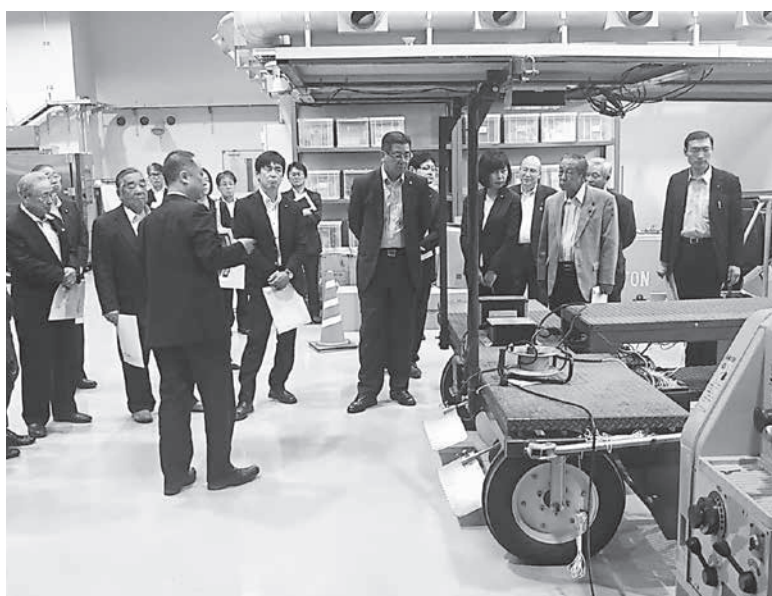
十勝の広域消防は、

管内19市町村すべてを管轄区域としており、その面積は国内最大。平成28年4月の統合以降、十勝全域から年間2万件的緊急通報を消防指令センターで一元的に受付。最新鋭システムの活用により、迅速な位置の特定、308台の緊急車両の効率的な運用管理、デジタル無線による情報の保全と共有によって現場到着時間が大幅に短縮するなど、統合効果が

はつきりと現れている。とちかち財団は、農業を核とした地域産業の振興を支援し、活力ある十勝の形成に貢献するための組織。事業としては、企業等のものづくり支援、商品PRや販路拡大の地域連携支援、人材育成や起業等の事業創発支援の3つを柱とし、鮭節だし醤油開発や学生起業など多くの成果を生み出している。



札内川のきれいな水を給配水（なかとちかち浄水場）



改良を重ねる農業機械（とちかち財団）